

4 酸素ボンベ関係の事例 ～使用方法の確認について～

発生時の状況と経過

吸引しても生徒の SpO₂値が 92%以下になるため、酸素吸入一覧表(指示内容をまとめたもの)を見ながら酸素3L/分から投与を始め、保護者に電話連絡をした。酸素使用後は SpO₂97～98%に上昇したため、酸素量を2～3分毎に徐々に下げ、中止した。中止後は酸素なしでも安定して過ごせた。

下校時に、保護者に酸素使用時の様子を伝えたところ、酸素は3L から使用するのではなく、0.25L から使用してほしいと言われ、謝罪をした。

発生時の対応と処置

保護者からの申し出により、酸素の使用方法に見解の相違があることが分かったため、酸素を使用する際は、0.25L から使用することを保護者と確認した。

考えられる原因や背景

最新の記録が記載されている実施記録(「実施記録の手順表」)ではなく、酸素吸入一覧表で確認していた。

指示書には「SpO₂92%以下が持続したとき3L/分まで使用」と記載されているが、指示書を基に作った手順表には、その都度保護者からの情報を追加している。手順表には「0.25L～開始3Lまで」と記されており、読み手によっては見解が異なっていた。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・医療的ケアの個々の手順が詳しく記入されているものが「実施記録の手順表」のため、まずこの手順書を確認する。
- ・手順書の書き方を改善し、誰が読んでも同様の読み取りができるような表記にする。

ポイント！

- 手順書の記載は、間違えることがないように、数人で確認しましょう。
- 酸素開始時が緊急の場合もあるため、酸素開始時の状態と酸素流量について意識を統一しましょう。